

<p>25日 (日)</p> <p>民数記 13章</p>	<p>「そこは乳と蜜の流れる所でした」(27節)「しかし、彼と一緒に 行った者たちは…悪い情報を流した」(31-32節)。主 が約束してくださった地を求めて旅するイスラエルの民。目的 地は一緒でも、内なる思いはバラバラであることがわかる。そ のバラバラを主の憐みによって、結び合わされていることを覚 えて、平和の言葉を唇に載せることができますように。</p>
<p>26日 (月)</p> <p>民数記 14章</p>	<p>「もし、主は我々が主の御心に適うなら、主は我々をあの土 地に導き入れ、あの乳と蜜の流れる土地を与えてくださるだ ろう」(8節)。約束の地(目的地)を目指す歩みの中で、最善 の道がわからない時、イスラエルは主の計画と反対の道を選 ぶ。しかし主はその度ごとに、イスラエルの民の前に現れ、励 まし続けてくれる。主の臨在を感じる日々感謝して。</p>
<p>27日 (火)</p> <p>民数記 15章</p>	<p>「会衆は、あなたたちも寄留者も同一の規則に従う…あな たたちも寄留者も主の前には区別はない」(15節)。イスラエ ルの民の中に他の民族も一緒に旅し、生活を共にしていた。 主は、イスラエルも、寄留の民も同じように慈しみ、その命をま もっておられた。礼拝共同体として主の戒めに従う資格のあ る者は、人が決めるのではなく、主が既に決めておられる。</p>
<p>28日 (水)</p> <p>民数記 16章</p>	<p>「コラは共同体を集め、臨在の幕屋の入り口でモーセとアロ ンに相對した。主の栄光はそのとき、共同体全体に現れた」 (19節)。生活を分かち合うイスラエルの民の間にも多様な意 見がある中に、主はご自分の栄光を示してくださる。主の幕 屋を中心にする生活は、神賛美を中心とする生活。私たちの 生活の真ん中に主なる神をいただいて歩みたい。</p>

<p>29日 (木)</p> <p>民数記 17章</p>	<p>「アロンの杖を掟の箱の前に戻し…保管しなさい。そうすれば、わたしに対する不平がやみ、彼らが死ぬことはない」(25節)。主がどんな時でも、イスラエルの民を見放さなかったことを忘れないために、アロンのアーモンドの実のなった杖を主の掟の箱の前に置くように命じられた。主の恵みは主の掟よりも前にすでに私たちの上に注がれていることを信じて。</p>
<p>30日 (金)</p> <p>民数記 18章</p>	<p>「わたしが、イスラエルの人々の中であなたの受けるべき割り当てであり、嗣業である」(20節)。イスラエルの民の中でも神が備えてくださっている嗣業は一人一人異なっている。主は必要に応じて、恵みを備えてくださるが、その恵みの形は一つではないことが示されている。「わたしの恵みはあなたに十分である。」(Ⅱコリント12:9)の言葉を心に留めて。</p>
<p>31日 (土)</p> <p>民数記 19章</p>	<p>「祭司は、自分の衣服を洗い、体に水を浴びた後、宿営に入ることができる」(7節)。祭司は、イスラエル人に代わり贖いの献げ物を主にささげる仕事を担っている。その働きの後、彼らも汚れを受ける。命を奪うことは、祭司であれ、誰であれ、奪った命の責任までを引き受けること。神はイエスの十字架の出来事を通して全ての命の責任を負ってくださっている。</p>
<p>9月1日 (日)</p> <p>民数記 20章</p>	<p>「モーセが手を上げ、その杖で岩を二度打つと、水がほとぼしり出た」(11節)。岩から水がほとぼしり出る、ありえない奇跡を神はそれぞれの旅路に起こされる。主イエスは言われた。「わたしを信じる者は…その人の内から生きた水が川となって流れ出る」(ヨハネ7:38)。主イエスの愛につなげられる時、乾ききった岩のような心に生きた水が流れ始めるのだ。</p>